

花も木も伸び放題に乱れたる無人となりて久しき旧家（R）

さなぶりの頃・・・

地区の回覧板でさなぶりのお知らせが流れました。さなぶりは田植えが終わった農家のお祭りです。田植えに手伝いにきてくれた人に餅料理を振る舞います。昔は賑やかに餅の食べ比べをしたり力自慢をしたりお酒をのんだりして、とても楽しみな行事でした。町内の小学校の相撲大会は毎年この時期。相撲は古来豊作を祈願する国技です。この時期の餅料理は、あんこ餅、納豆餅、クルミ餅、そして雑煮です。雑煮には、千切りしたゴボウやニンジン、椎茸、鶏肉、糸蒟蒻、竹輪（見通しがよいように）と笹筍も入れます。子ども達には、朴の葉で煎り豆や餅あられを包んだ「よで豆」が配られます。今、町ではマラソン大会の時期です。

さなぶりが終わると今度は田の草取り（今は除草剤を使うことが多い）が始まります。一番田の草取り、二番田の草取りをした後は、虫送りの行事も賑やかでした。その日の午後、餅を食べ、風呂に入った子どもたちは、夕方から藁や萱を持ち、ガンガラ（一斗缶など）を叩いて「稲虫ガンガラガン」と田を練り歩き、たいまつを持ったり、カンカラ（缶詰カン）を叩いたりして、川原や村はずれで火を焚いて集めた虫を送りました。うちに帰るとまた餅を食べます。東町や四日町のように、大きな柳の木を山車のように引き、提灯を下げ、練り歩く所もありました。農家の休みは少なかったので、子どもたちにも楽しみな行事でした。・・・

蠮螋生ず(かまきりしょうず)

6月5日～6月9日頃

マタギの里、阿仁町(秋田県北部)での探話である。「熊は冬眠中に子を産み、1年半だけ一緒に暮らす。つまり次の年の夏までだ。子熊が野莓を夢中になって食っている時に母熊はソーツと姿を消す。自然界では餌が少ない為だ。子熊も辛い母熊も辛い。俺達はそれを『いちご別れ』と呼んでいる。」(海藤忠男)

腐草螢と為る(ふそうほたるとなる)

6月10日～6月14日頃

田んぼの苗は緑濃い季節になり、野の花の美しい姿が目に入ります。今年も山を歩き草もちの材料になるごぼっ葉を探りに行きました。親戚で食べた味が忘れられず数年前から作っています。昔はすぐ手に入った葉が今はなかなか見つけることができず。葉を干し保存し、春の農作業のおやつにしたそうです。(き)

梅子黄なり(うめのみきなり)

6月15日～6月19日頃

今年は表年なのかたくさん梅がなりました。まだ熟していない青梅は梅酒に。ほんのり熟したのは砂糖を入れてジャムに。梅は有効に使います。梅ぼしは真夏のジリジリ暑い三日間平らなザルに真赤な梅を広げ土用干しをします。昔と違い今は減塩の梅ぼしが好まれますがおにぎりの具として定番です。(み)



2015.6.6 今宿より最上川をのぞむ

読書会だより②1

大石田の芒種のころ

七十二候より

大石田町立図書館

川原や土手にはマーガレット・白つめ草・赤つめ草などの野の花が一面に咲いています。白つめ草はその香りも懐かしく、遠い昔の子ども時代を思い起こさせてくれる花。草っ原にしゃがみ込み、花を摘み摘み時計だの首飾り、王冠など友だちに飾ってもらったり、飾ってあげたり。長く編んで縄とびにしてみたら、すぐに切れてしまい、みんなで大笑いしたっけ……。閑かなカツコウの鳴く声を聞きながら、心もほっこりと、最上川のほとりの散歩を楽しんでいます。雑草の中に隠れるように咲く露草を見つけました。

(れ)